

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2375700792		
法人名	社会福祉法人愛光園		
事業所名	グループホームもくせいの家(きんもくせい、ぎんもくせい) きんもくせい		
所在地	愛知県知多郡東浦町緒川上莉又池58-1		
自己評価作成日	令和元年10月20日	評価結果市町村受理日	令和2年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigyo_syoCd=2375700792-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigyo_syoCd=2375700792-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和1年11月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者様への感謝と敬意、職員同士の感謝と敬意、それらが自然ともたらされる組織風土を目指している。また認知症支援の専門機関として、学びを促しレベルアップを図っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、リビングは広い空間が確保されており、利用者が日常生活を通じて圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。ホームの庭も広い敷地が確保されており、利用者が日常的に季節を感じることができるような雰囲気がつくられている。ホームから離れた場所にあるゴミ捨て場所に利用者とは出かける機会をつくり、利用者の日常的な外出の機会につなげている。ホームの運営法人では、老健をはじめ、複数の介護事業所を運営しており、職員研修や行事等については、関連事業所とも連携した取り組みが行われている。また、ホームでは、他のグループホームの方との交流が行われており、交流の取り組みについては、当ホームの管理者が交代した際にも継続的に行われている。運営推進会議の際には、お互いに管理者が出席する機会をつくっており、定期的な情報交換が行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	クレド、事業所の理念として毎日読み合わせし、理解を求めている	理念に関する見直しを行い、運営法人の基本理念をホームの支援の基本と考えながら、職員に周知する取り組みが行われている。運営法人でクレドを作成し、職員間で理念の実践につなげる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	行政包括などとの交流などあるが十分ではない	地域のコミュニティセンターで行われている行事の際には、ホームからも参加する機会をつくり、地域の方との交流につなげている。また、運営法人の関連事業所の行事を通じた、地域の方との交流の機会もつくられている。	地域の方との交流を深めるために、新たに駄菓子屋の取り組みを行う等、職員間で様々な検討が行われている。地域の方との交流に関する継続的な取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所単独ではない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	しっかりとテーマ設定し、活かしている	会議の際には、地域の方の参加が得られており、会議を通じて地域の方との情報交換等が行われている。また、会議には、複数のグループホームの方の参加が得られており、ホームの運営等に関する交流の機会にもつながっている。	家族にも案内を行っているが、現状、限られた範囲での出席となっている。家族へのホームからの継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日常的に連携はできていない	広域連合や市町村との情報交換等の取り組みについては、運営法人を通じて行われているが、ホームからも連絡会等に参加する機会がつけられている。また、地域ケア会議が行われる際には、ホームからも職員が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2~3か月に1回は勉強会を開催し理解を深めている	ホームでは、身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ユニット間の移動を自由にできるように配慮し、リスクのある方についても職員間で代替案を検討する取り組みが行われている。また、定期的な検討会議や職員研修の取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記同様である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料提供程度になっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	一通りできていると思うが、十分ではないかもしれない		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情解決などの説明はしているが、使いやすいかどうかは不明	運営法人等で行われている行事の際には、家族にも案内を行っており、交流につなげている。家族からの苦情等については、書面にて担当者と解決者を明記する取り組みが行われている。また、年4回の機関紙の他にも、随時の情報提供が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職種、雇用形態を問わず、広く意見を求めている	毎月の職員会議や日常的な職員間で情報交換が行われている。職員体制の見直しも行いながら、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。管理者による職員面談の機会がつけられており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	最大限の努力と実施を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修など積極的に実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の会合、他法人との連携など努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	満足度が図りにくいが努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご本人、ご利用者の立場で考えるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	費用も含め最善を目指している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共感できる場面をできる限り作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	最近やや希薄になっていると感じることがある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設としてはオープンびしているが…。	関連事業所に利用者の知り合いが利用している方があり、行事等を通じて利用者との交流の機会にもつながっている。また、家族の協力も得ながら、行きつけの美容院を利用している方もいる。また、家族との喫茶や食事等で外出している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	年齢、相性など配慮しつつ支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	極力ご本人ご家族主体となるよう気を付けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に生活の状況が反映できるようにしている	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握が行われている。また、毎月のカンファレンスの取り組みが行われており、職員間で検討を重ねながら、利用者の意向等を日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントが不十分と反省している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個別性が不足していると実感している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	会議で確認し、ノートなどで確認しながら進めている	介護計画については、利用者の変化等にも合わせて3か月で行われている。モニタリングについては、担当職員も参加しながら、毎月の実施が行われている。また、職員間で日常的に情報交換を行いながら、介護計画の内容の共有につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々引き継ぎ内容の共有を大切にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	他事業他法人との連携を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源活用に至っていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療連携を強化している	ホームでは、複数の医療機関を協力医としており、それぞれの協力医から定期的及び随時の医療面での支援が行われている。利用者に関する健康面での情報を定期的に協力医及び家族に提供しており、医療面での連携にもつなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	老健の看護との連携を大切にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個別に関係強化はしていないが、日常的に連携できている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	できるだけ本人ご家族に負担が減るように早めの相談支援を心がけている	基本的な方針としては、利用者の看取り支援は想定していないが、身体状態の重い方が増えている現状もあり、訪問看護との連携を深める等の支援が行われている。利用者、家族の意向等にも合わせて、運営法人の関連事業所との連携も行われている。	ホームでの看取り支援については、ホームの今後に向けた検討課題としている。利用者、家族の意向等にも合わせた、ホームの継続的な検討及び取り組みにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを考え、実践的訓練の機会を持っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月の訓練実施をしている	ホームでは、毎月の避難訓練の取り組みが行われており、夜間を想定した訓練の実施や通報装置の確認が行われている。運営法人の高齢事業部の合同防災訓練を通じた関係者との連携も行われている。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	ホームでは、災害による長時間の停電を経験したこともあり、新たな課題にもつながっている。様々な災害や状況を想定しながら、ホームの災害対策に関する継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常時見直し改善を心がけている	運営法人で作成した「クレド」には、職員による利用者への対応に関する基本指針も掲げられており、職員が日常的に言葉遣い等を意識する機会にもつながっている。また、職員の接遇にもつながる研修も行われており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に声、表情、しぐさに耳を傾けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に個々のペースを意識してもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	常に意識したり、働きかけたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ある程度(福祉施設レベル以上)はできていると思う	食事の提供方法を見直しており、おかず類は外部業者から提供を受け、ホームで盛り付け等が行われている。毎週日曜日を基本に、おやつ作りを行いながら、利用者の楽しみにつなげている。また、食事の際には、職員も利用者と一緒に食事を行うようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養管理された食事を仕入れ提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日4回の口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	極カトイレにて排泄を継続している	利用者全員の排泄記録を残し、日常的にも連絡ノート等も活用しながら職員間で情報を共有し、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。利用者がトイレで排泄できるように職員間で検討を重ねており、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	常時状況把握し、排泄を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	ご本人同意の上での入浴支援を継続している	ホームでは、利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、希望に合わせた回数にも対応している他にも、入浴の時間についても午前と午後に対応している。また、入浴剤を活用したり、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	価値観を固定することなく、本人のペースを尊重している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が把握しているとは言い切れない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個別の役割、居場所造りはできていない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	人手不足があるにしても、できていない	ホームから離れた場所にあるゴミ捨て場所まで、散歩を兼ねて出かける取り組みが行われている。年間を通じて外出行事が行われており、様々な場所へ出かける機会をつくっている。また、誕生日外出等、利用者の意向にも合わせた外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	状況により預かったり、自己管理を促したりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要時に対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	可能な限り、工夫している	ホーム内は広く、天井も高くつくられてある他にも、利用者が日常生活をゆったりと過ごしてもらいように、木のぬくもりを活かした落ち着いた雰囲気である生活環境がつけられている。また、利用者の作品を掲示する等の取り組みも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	十分にできているとは言えない		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	特に制限をせず、ご利用者の判断にゆだねている	居室については、利用者の馴染みの家具類や家族の意向にも合わせた持ち込みが行われている方がいる一方で、シンプルな雰囲気の居室の方もいる。ホームでは「洋風の居室」と「和風の居室」が用意されており、居室に合わせた雰囲気づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレを見やすくしたり、工夫している		